

今月のコンテンツ

- 会員学会・団体の総会等の報告：第88回日本衛生学会学術総会
- シリーズ報告：ICOH2018参加報告
- 今月のお知らせ

第88回日本衛生学会学術総会報告（2018.3/22-3/24：東京）

むとう ごう 武藤 剛^{1,2)}、よこやま かずひと 横山 和仁¹⁾、きたむら ふみひこ 北村 文彦¹⁾

1) 順天堂大学医学部衛生学講座

2) Harvard T.H.Chan School of Public Health

第88回日本衛生学会学術総会は、2018年3月22日より24日、横山和仁順天堂大学医学部衛生学講座教授を会長に、「きわめよう衛生学：知行合一のすすめ」をテーマとして、東京工科大学で開催された。今回は、日本衛生学会が一般社団法人となって最初の学術総会であった。鈴木大地スポーツ庁長官や、泉陽子



横山和仁学術総会会長

AMED（日本医療研究開発機構）統括役による特別講演をはじめ、21に及ぶシンポジウム、200を超す一般演題による活発な討議が行われ、約700名の参加による盛況な学術集会であった。

「社会医学教育を考える（座長：小林廉毅氏（東京

大学）、谷川武氏（順天堂大学）」と題したシンポジウム16では、社会医学系専門医制度や日本産業衛生学会専門医制度を含めた社会医学教育が議論された。新井一氏（順天堂大学）からは、2016年医学教育モデル・コア・カリキュラム改定を踏まえ、「多様なニーズに対応できる医師の養成」のためのシームレスな卒然・卒後医学教育として、社会の変遷への対応や診療参加型臨床実習の重要性が示された。



鈴木大地スポーツ庁長官

コア・カリキュラムからみた社会医学教育の実際として、北村聖氏（国際医療福祉大学）からは、「社会と医学・医療」の具体的な学修項目として、集団に対す

る医療としての、生物統計学・臨床統計学・臨床研究学の基礎の学修、医療における費用対効果分析、障害者福祉・精神保健医療福祉の現状の項目が説明された。さらに、「医療に関連のある社会科学領域」の追加として、「文化的社会的な人脈のなかで人の心と社会の仕組みを理解するための基礎的な知識と考え方及びリベラルアーツを学ぶ。臨床実践に行動科学・社会科学の知見を活かすことができるよう、健康・病い・医療に



シンポジウム16

関する文化人類学・社会学の視点・方法・理論について、理解を深める」とのねらいと、行動科学・社会科学の基礎についての学修目標が提示された。大槻剛巳氏（川崎医科大学、現理事長）からは、社会医学教育の在り方と将来展望について、産業衛生を含めた卒業社会医学教育・専門医制度の在り方が提示された。

本学会は、小泉昭夫理事長（当時）の強いリーダーシップのもと、わが国が直面している少子高齢化問題に対する学術的な貢献を推進することを大きな方向性の一つとしている（第86回学術集会で可決）ことから、「少子高齢化社会日本における学術研究からの問

題提起」（座長：野村恭子氏（秋田大学）、荻田香苗氏（杏林大学））と題したシンポジウム13では、出産と女性の労働参加に関して経済的観点を含めた分析結果と環境整備の提言、多様化する雇用や家族形態に対応できるような在り方の社会医学的提言等がなされた。その他、治療と職業生活の両立支援、難病対策、ミクロからマクロ・グローバルな視点からの環境物質の健康影響評価と対策（タバコ・放射線被ばく・石綿・金属や化学物質・PM2.5等）といった社会医学が網羅する後半な領域に及ぶ話題について多彩な報告や討議が行われた。

開催にあたり、ご高配を賜った多数の学会関係者、運営委員会の方々、ご後援いただいた環境省、東京都、日本医師会及び順天堂大学医師会、ご支援をいただいた関係各社・機関の皆様、演者および座長の方々に感謝申し上げます。特に、会場使用にあたりご尽力を賜った東京工科大学医療保健学部学部長の梅田勝先生をはじめとする教職員の方々に、心よりお礼申し上げます。



シリーズ 国際労働衛生会議 (ICOH) 2018 @ Dublin 報告

国際労働衛生学会 ICOH に参加して


 高知大学教授 ^{すがねま}菅沼 ^{なるふみ}成文

三年に一度の国際労働衛生学会がダブリンで開かれた。ガラス張りの近代的な国際会議場は、外から見るとあまり広くない感じだったけれど、だいぶ人を収容できるスペースがあったようだ。2000年のシンガポールでの学会に始めて参加し、その当時七カ国共同で開発した国際じん肺 CT 分類についての発表を行ったのが最初である。その時に質問をしてくれたブラジルのエドアルド医師とは今も親交がある。

さて、今回も、私は職業性呼吸器疾患に偏ったセッションのみにしか参加しなかったのだが、何故か、ほぼ毎日関連したセッションがあり、座長、セミプレナリーとしての招待講演、国際じん肺 CT 分類のシンポジウムと忙しい毎日だった。さらに、ダブルブッキングのために座長ができないという友人のために座長の代理も引き受けたので様々な発表をまじめに聞くことが出来た。

招待講演は、福井医科大学時代から行ってきたじん肺エックス線分類の教育について、アジアでじん肺エックス線読影医を養成する AIR Pneumo プロジェクトについて紹介したところ、大変な反響であった。地道な仕事ではあったが、世界各国の状況を見れば、じん肺のスクリーニングに携わる医師が必要になってきていることを肌で感じた。まさに、産業の発展とともに産業保健の重要性は増す。

一方で、より専門的な内容である国際じん肺 CT

分類 (ICOERD) のシンポジウムにも各国の実務者が集まり、休憩時間を挟んで3時間にわたるセッションで熱心なディスカッションが行われた。一般演題の中でも発表されていたが、先進国でも急進珪肺の症例が多発していて、じん肺を診断できる医師が不足しているという。一方で、911 テロのワールドトレードセンター爆破後のレスポンドナーの健康診





断に ICOERD が使われており、まさに、新興再興職業病の様相を呈している。我々の分野もまだまだニーズがあることを確認した。

高知大の大学院生、野上祥子医師も自身が受け持つ産業現場での睡眠時無呼吸症候群についてのフィールド調査の結果をポスターで報告。様々な国から来た研究者や実務者とのディスカッションの中で、頑張っって研究の意義を主張していた。若手の研究者の活躍は好ましいが、若手とベテランの交流の場では、Scientific Committee of Respiratory Disorders には誰も来てくれなかったのが少し残念。

日本産業衛生学会の川上憲人理事長のご提案でアジア諸国の産業保健学会等のカウンターパートとの交流会も学会晩餐会の直前に行われ、八カ国の代表が集まり、交流促進の為の話し合いが持たれた。非常に前向きに交流を進めることが出来そうだ。そ

の日本側の担当者に指名されたので、手始めに、名古屋の学会で具体的な交流を進めていきたいと思う。

空白時間を見つけて、路面電車を乗り継いで、トリニティーカレッジ周辺の散策。ハリーポッターにでも出てきそうな図書館も見せてもらった。我々の先祖が木と紙の家を作っていた時代に石の家を作っていた人たちが居たんだなという不思議な感慨が残った。ジョージアン様式の扉があちこちに見られるセント・スティーブンス・グリーン周辺には、各種のアイリッシュウイスキーを取りそろえた店やアイリッシュバーが立ち並んでいた。横を通っているタンクローリーを見てびっくり。なんと、ギネスビールを満タンにしたタンクだったのだ。立ち寄ったアイリッシュバーのメニューにはギネスは書かれていなかったのだが。

今月のお知らせ

公衆衛生関連の大学院等の課程・科目を基本プログラムとみなすための申請について（2018/19年度）

基本プログラム研修については、現在、社会医学系専門医協会加盟の各学会で、学会総会に合わせての実施（科目単位）を検討していますが、それとは別に、国内の公衆衛生関連の大学院、国立保健医療科学院等の課程または提供科目の修了を、別紙「基本プログラムにおける大学院・国立保健医療科学院等の課程及び提供科目の扱いに関する要項」に従い、基本プログラムの全部または一部の修了として扱うことといたします。ただし、現在までに認定されている各地の専門研修プログラムに当該大学院等教育機関が組み込まれている必要があります。

詳しくは同要項をご覧ください、1-（1）、2、3に該当する大学院等教育機関は、別紙様式1申請書と最新版シラバスを事務局宛にお送り下さい。同要項の1-（1）に該当する大学院については、提出の必要はありません。

なお、対象は課程または科目単位とし、単元（時間）単位の認定は行いません。科目単位の場合、大学院等1科目と基本プログラム1科目の対応だけでなく、大学院等複数科目が基本プログラム1科目または複数科目に対応することもあります。申請する科目の内容を基本プログラムの単元内容とよく比較対照してご検討下さい。

申請の締切は、2018年10月30日（火）（消印有効）です。締切後に協会内で審議し、基本プログラムとしての認定の可否を連絡いたします。

提出先：〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番8号公衛ビル

社会医学系専門医協会 事務局
 senmonshakai-office@umin.ac.jp



第1回専門医認定試験について

| | |
|------|---|
| 日時 | 2019年8月18日(日) 10時~17時 |
| 会場 | 日本医師会館(東京都文京区駒込2-28-16) |
| 方法 | 午前 筆記試験 / 午後 面接試験 |
| 受験料 | 20,000円 |
| 対象者 | 「今後の経過措置専門医・指導医について」(お知らせ2018/03/19) をご確認ください。 |
| 申込受付 | 2019年5月中旬(予定)(申込受付、実施要領等の詳細は決定次第、ホームページに掲載いたします) |
| その他 | : 経過措置による専門医認定試験の受験(専攻医に登録されないでの受験)を希望されている方は、 受験資格事前審査 についてもご確認ください。 |

受験資格事前審査について

第1回専門医認定試験(2019/8/18実施予定)の受験にあたり、経過措置による受験(専攻医に登録されないでの受験)を希望されている方を対象に受験資格事前審査を行います。

| | |
|--------|---|
| 対象者 | 経過措置による受験(専攻医に登録されないでの受験)を希望される方 ※詳しくは、 「今後の経過措置専門医・指導医について」(お知らせ2018/03/19) をご確認ください。 |
| 申請方法 | : 受験資格事前審査申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、郵送にて社会医学系専門医協会事務局までお送りください。 受験資格事前審査申請書 (Word ファイル) |
| 申請締め切り | 2018年8月10日(金) 必着 |
| 審査料 | 10,000円(下記口座へお振り込みください) ※受験資格事前審査申請書の提出と審査料の入金確認後、審査を行います。 |
| 審査結果 | 2018年9月頃に郵送にて結果をお知らせいたします。審査で受験資格が認められた方には、別途、社会医学系eラーニング・コンソーシアム事務局から、ID、パスワードが通知されます。 (E-ラーニングでの基本プログラム等の受講が可能です。) |
| 送付先 | 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内 一般社団法人 社会医学系専門医協会事務局 「受験資格事前審査」係 宛 |
| 振込先 | 郵便振替 口座記号番号: 00120-9-696959 口座名義: 一般社団法人 社会医学系専門医協会 口座名義カナ: イッパンシャダンホウジン シャカイイガクケイセンモンイキョウカイ ※振込元の名義は、個人名での振込としてください。 |